

令和2年度

公立高等学校入学者選抜

学力検査結果活用ガイド

～学習内容の確実な定着に向けて～

山梨県教育委員会

目 次

I 調査の概要	-----	1
---------	-------	---

II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要	-----	1
-------------------------	-------	---

III 教科別調査結果の概要

国 語	-----	3
-----	-------	---

社 会	-----	7
-----	-------	---

数 学	-----	11
-----	-------	----

理 科	-----	15
-----	-------	----

英 語	-----	19
-----	-------	----

I 調査の概要

1 調査の目的

令和2年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育を充実させるための資料とすることを目的とする。

2 学力検査実施日、調査教科

令和2年3月4日（火）

国語（55分）	9：30～10：25
社会（45分）	10：40～11：25
数学（45分）	11：40～12：25
英語（45分、うち「リスニング」約12分）	13：30～14：15
理科（45分）	14：30～15：15

3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受検した者全員3,899人（男子1,975人、女子1,924人）を対象としている。

なお、正答率調査については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は、392人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たってはすべての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要

1 出題のねらい、配慮事項

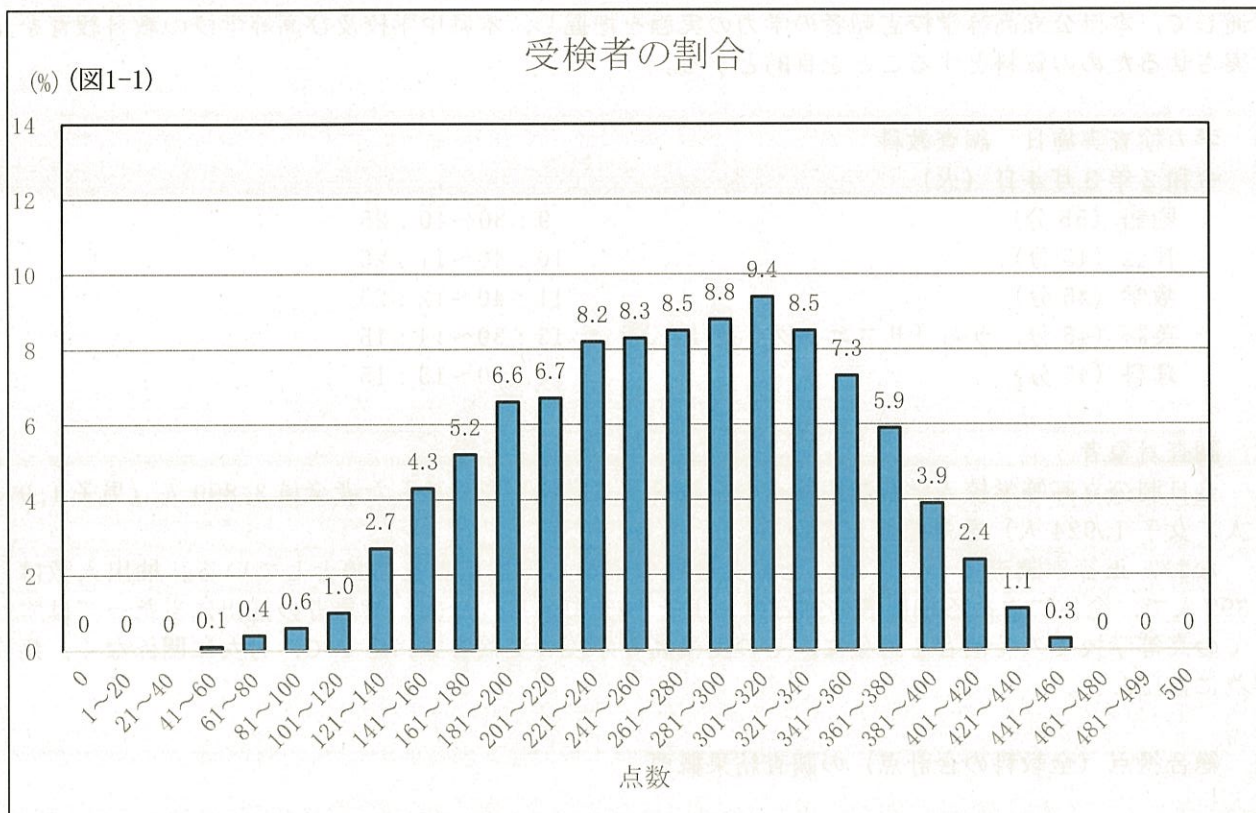
- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、それらを活用する力を検査することができるように出題した。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題した。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないように配慮し、思考力、判断力、表現力を検査することができるように工夫した。
- ④ 全県的な視野にたつて出題し、地域差による影響が生じないようにした。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにした。

2 総合得点および教科別平均点、最高点、最低点

	総合得点	国語	社会	数学	理科	英語
平均点	270.9	56.0	52.6	53.9	49.2	59.2
最高点	453	89	100	97	100	100
最低点	44	9	4	0	3	2

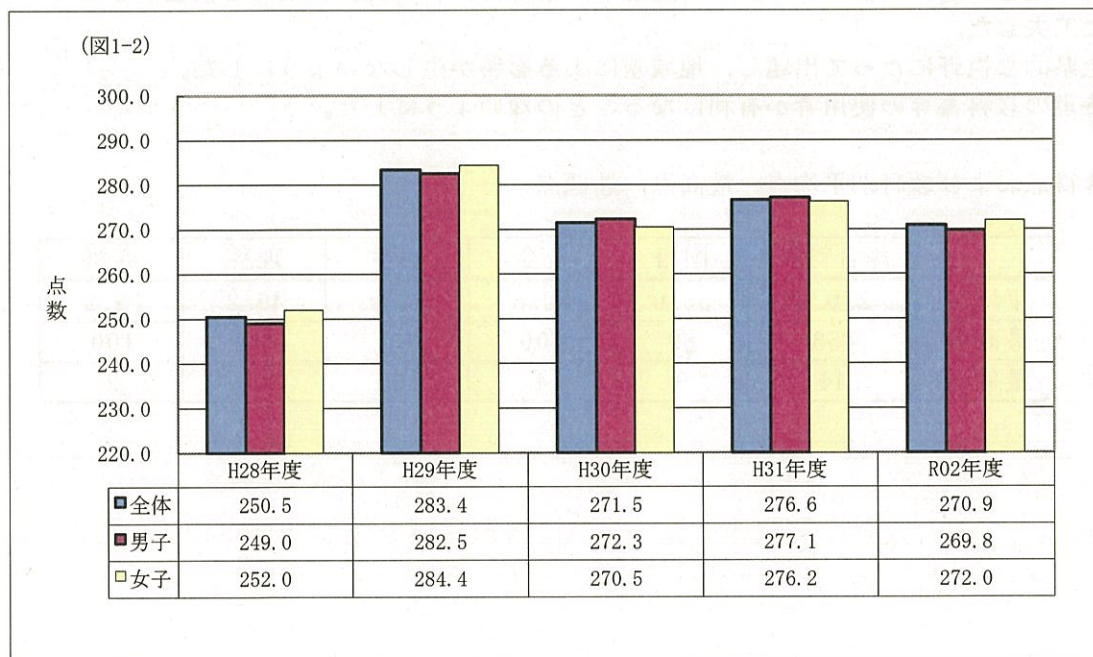
3 総合得点の得点分布

総合得点の平均点は270.9点で、前年度より5.7点下がった。得点分布は（図1-1）に示すとおりである。



4 総合得点の平均点の推移

平成28年度から今年度入試まで5年間の全体平均は（図1-2）のように推移している。



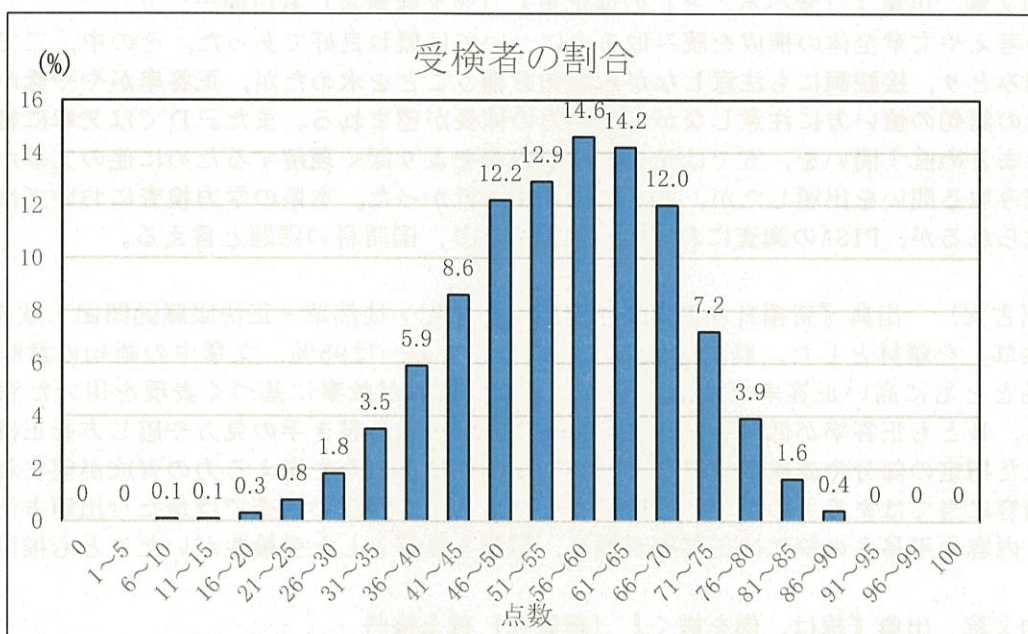
Ⅲ 教科別調査結果の概要

○ 国 語

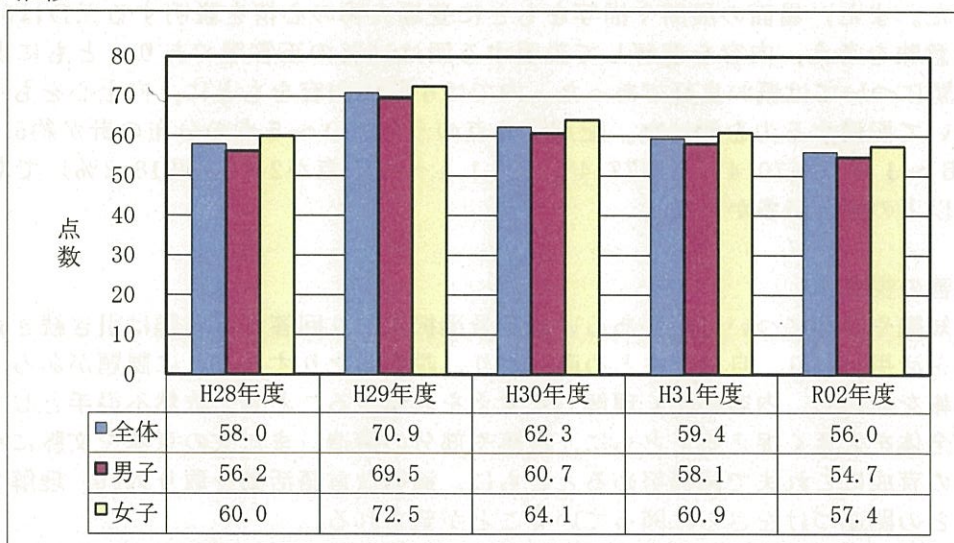
1 出題のねらい、配慮事項

- ① 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の内容を網羅し、基礎的な学力を測ることができる問題構成となるよう配慮した。
- ② 「話すこと・聞くこと」に関しては、話し合いの場面を取り上げ、話し合いの話題や方向を捉える力、相手の立場・考えを尊重して自分の考えを話す力を測ることができるよう配慮した。
- ③ 説明的な文章では、食を多面的、グローバル的に考える必要がある現代の状況を論じた評論文を題材とした。文章の内容や論理展開を問うとともに、SDGsの開発目標について述べた文章をサブテキストとし、筆者の考えの具体例を読み取る問いを設け、文章の理解を深めることができるよう配慮した。
- ④ 古典については、古文を読み、作者のものの見方や考え方を捉えるとともに、故事を元にした表現を用いた意図を問う問いを出題し、伝統的な言語文化に親しみを持てるよう配慮した。
- ⑤ 文学的な文章については、水墨画の上達に試行錯誤する青年の姿を描いた小説を題材とし、人物の心情や場面展開を読み取り、表現の仕方を捉える力を測ることができるよう配慮した。

2 得点別に見た度数分布



3 平均点の推移



4 大問別の内容と調査結果の分析

一 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字の読み書き・漢文の訓読に関する知識）

一、二では、常用漢字の読みと書き取りについて出題した。学習指導要領で求める漢字の知識は概ね身に付いているといえるが、やや馴染みが薄い語句の読みについては正答率が下がった。さまざまな活動の中で漢字の知識をさらに身に付ける必要がある。三では、漢文に返り点を付ける問いを出題したが、正答率は52%であった。前年度も古典の大問中で同様の出題をしている（正答率63%）が、今年はさらに11ポイント低かった。身に付けた知識を実際に用いることができるよう習熟する必要がある。

二 話すこと・聞くこと

話すことについての言葉の知識を問う一では、設問の意図や言葉のきまりについての用語を正しく理解できていなかった受検生も見られたようだ。二は比較的良好であり、普段の言語活動の中で、話し合いの話題や方向を捉える力が身に付いている生徒が多いことが見て取れた。一方、相手の発言を尊重して自分の考えを表現することについて出題した三は正答率が21%であり、考えたことを表現する力の育成に引き続き課題があると言える。

三 説明的文章 出典『「食べること」の進化史』（光文社新書）石川伸一

筆者の考えや文章全体の構成を読み取る力については概ね良好であった。その中、二では文章の構造を読みとり、接続詞にも注意しながら語句を補うことを求めたが、正答率がやや低かった。文脈の中での語句の使い方に注意しながら読む力の伸長が望まれる。また三Dでは文章に書かれていることをまとめ直す問いを、五では元の文章の内容をより深く理解するために他の文章から必要な情報を読み取る問いを出題したが、ともに正答率が低かった。本県の学力検査においては近年同じ状況が見られるが、PISAの調査においても同様であり、国語科の課題と言える。

四 古典（古文） 出典『新編日本古典文学全集 方丈記・徒然草・正法眼蔵随聞記・歎異抄』

「徒然草」を題材とした。歴史的仮名遣いについての一は95%、文章中の語句の意味を捉える二は80%とともに高い正答率だった。一方、三では作者が故事に基づく表現を用いた意図を問うたが、A、Bとも正答率が低かった。文章全体に表れている書き手の見方や感じ方を正確に理解する力、また指定の部分や表現が全体とどのような関係にあるかを考える力の育成が望まれる。四は文章の内容に当てはまるものをすべて選ぶことを求めた。国語の検査では新たな出題方法であったせいか、内容の平易さの割には正答率が低く、指示を見落とした受検生がいたことも推測される。

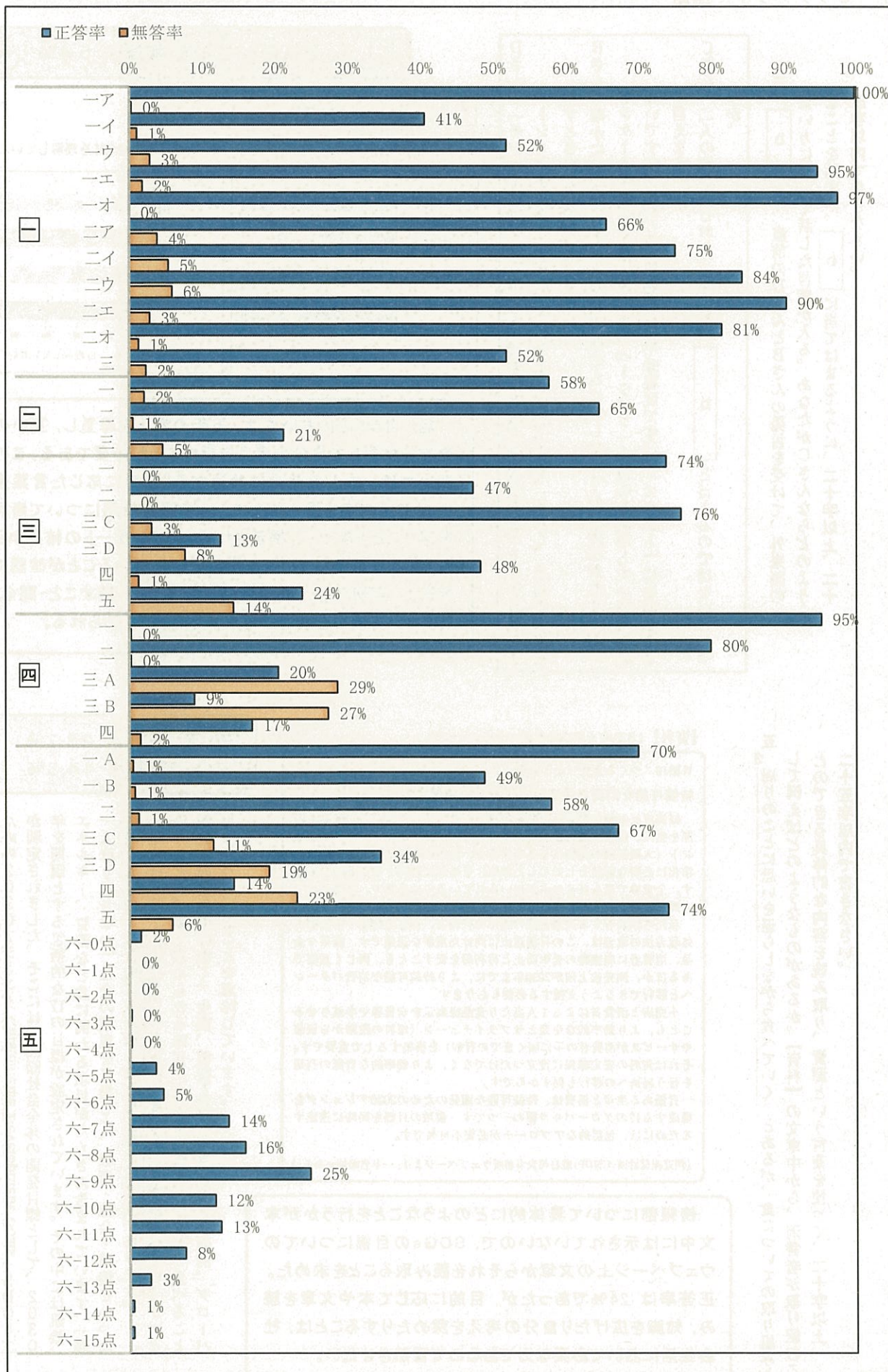
五 文学的文章 出典『線は、僕を描く』（講談社）砥上裕将

一Bの正答率は49%であり、前年度同様、文脈の中での語句の使い方に注意して読むことに課題が見られた。また、場面の展開や描写をもとに登場人物の心情を説明する三Dは34%、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解して説明する四は14%の正答率であり、ともに課題と見られる。他の問題については概ね良好であった。六では小説の内容をもとに、向上心をもって取り組んだことについて記述する力を測った。配点15点のうち、0～5点の分布の計が約5.6%（前年度4.4%）、6～10点が70.4%（同77.4%）、11～15点が24.0%（同18.2%）であり、前年度より11点以上の割合が多かった。

5 指導の改善の視点

基礎的な知識や読解について短答あるいは記号選択により回答する問題は引き続き良好であるが、それらを活用したり、自分でまとめ直したり、説明したりすることに課題がある。また、複数の文章や情報を活用し、内容を深く理解して考えを表現することも、依然不得手としている傾向がある。文章全体を大きく捉えるとともに、段落や部分の構造、また文の意味を文脈に沿って正確に理解する力の育成にこれまで同様努めるとともに、適切な言語活動を取り入れ、理解することと表現することとの関連づけをさらに図っていくことが望まれる。

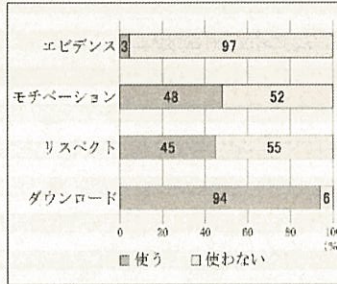
6 令和2年度 正答率調査結果 (国語)



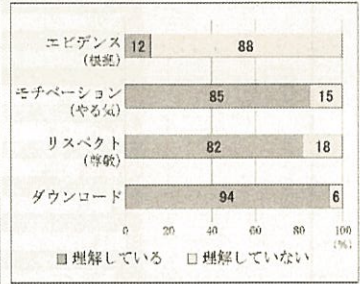
三 正答率: 21.2% 無答率: 5.4%

I 【アンケートの結果】

1. 次の外来語を使うか。



2. 次の外来語の意味を理解しているか。



話し合うことにおいては、相手の考えを尊重し、互いの発言を検討して自分の考えを話すことが必要である。この問いでは、二人の発言に共通する「相手に応じた言葉遣い」という内容を捉えた上で、外来語の使用について考えを話すことを求めた。提示されているアンケートの結果からも、意味は理解していても使わない人がいることが確認できるが、適切な解答は 21%にとどまった。話すこと・聞くことについての力を適切に育成することが求められる。

Dさん 「モチベーション」についてですが、私は「学園祭が近づくにつれてモチベーションが高まってきた」というように使います。しかし、友達や家族と話すときにしか使いません。

Bさん 確かに私も、日上の人や初対面の人に対して使うのは抵抗があります。アンケートの結果を見ても、「モチベーション」の意味を理解している割合は高いですが、使用している割合は半分程度です。「リスペクト」にも同じことが言えます。

Cさん 二人の発言のとおり、私たちは b と言っているのではないのでしょうか。

三 b には、直前のDさんとBさんの発言を受けて、外来語の使い方について話した言葉が入る。あなたがCさんならどのようなことを話すか。 b に当てはまるように、二十字以上、二十

五 3 周りのことに思いを巡らしながら食べていくとあるが、食についての取り組みとして例えばどのようなものがあるか。【資料】の文章の中から、消費者が取り組むことのできる具体的な内容を読み取り、資源という言葉を使って、二十字以上、二十五字以内で書きなさい。

【資料】(SDGsの17の目標のうちの一つ)

目標12: つくる責任つかう責任

持続可能な消費と生産のパターンを確保する

経済成長と持続可能な開発を達成するためには、私たちが商品や資源を生産、消費する方法を変えることで、エコロジカル・フットプリント(人間活動が環境に与える負荷を、資源の再生産および廃棄物の浄化に必要な面積として示した数値)を早急に削減することが必要です。全世界で最も多くの水が用いられているのは農業で、灌漑だけで人間が使用する淡水全体の70%近くを占めています。

私たちが共有する天然資源の効率的な管理と、有害廃棄物や汚染物の処理方法の改善は、この目標達成に向けた重要な課題です。産業や企業、消費者に廃棄物の発生防止と再利用を促すことも、同じく重要であるほか、開発途上国が2030年までに、より持続可能な消費パターンへと移行できるよう支援する必要があります。

小売店と消費者による1人当たり食品廃棄量を全世界で半減させることも、より効率的な生産とサプライチェーン(原料の段階から製品やサービスが消費者の手に届くまでの行程)を構築する上で重要です。それは食料の安定確保に役立つだけでなく、より効率的な資源の利用を行う経済への移行も促すからです。

責任ある生産と消費は、持続可能な開発のための2030アジェンダを構成する17のグローバル目標の一つです。複数の目標を同時に達成するためには、包括的なアプローチが必要不可欠です。

(国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所ウェブサイトより。一部省略等がある。)

傍線部について具体的にどのようなことを行うかが本文中には示されていないので、SDGsの目標についてのウェブページ上の文章からそれを読み取ることを求めた。正答率は 24%であったが、目的に応じて本や文章を読み、知識を広げたり自分の考えを深めたりすることは、社会生活において必要な力であるので習熟させたい。

五 正答率: 23.7% 無答率: 14.3%

2015年、国連持続可能な開発サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ(Sustainable Development Goals: SDGs)」が制定されました。そこには、国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標が設定されています。その中には「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す項目がたくさん含まれています。「誰一人取り残さない」社会的実現を目指して、経済・社会・環境といった広範な課題に、統合的に取り組むことを意識する必要があります。現代は、「いかに周りのことに思いを巡らしながら食べていくか」ということが、強く求められる時代になっています。つまり、食べるものが個人の営みではなく、生産、消費も含めてきわめて多面的、グローバルになっていることを意味しています。